

胎生期遺殘組織ヨリ發生セリト思惟 セラ、外陰並ニ腔囊腫

金澤醫科大學産科婦人科學教室(主任笠森教授)

醫學士 遠 藤 幸 三

Kôzo Endo

(昭和18年7月6日受附)

内 容 抄 録

妊娠第5月妊婦ニ於テ見ラレタル外陰並ニ腔囊腫ノ各1例ニシテ、前者ハ兩側ニ發生シ、各々210cc、220ccノ内容ヲ有シ後者ハ約雞卵大ノ囊腫ナリ。組織學的所見並ニ發生部位ヨリ考察シテ外陰囊腫ハ泌尿性器

竇ヨリ發生セリト思考セラ、腔囊腫ハ Wolff 管ニ由來セル囊腫ト思惟セラレ、共ニ文獻上希有ニ屬スルモノナリ。

目 次

第1章 緒 論
第2章 症 例
第3章 總括並ニ考按

第4章 結 論
文獻、附圖説明、附圖

第1章 緒 論

外陰並ニ腔囊腫ハ稀有ノ疾患ニ非ズ。小ナルモノハ婦人科診察時ニ際シテ偶然ニ發見セラ、モノ多シ。其ノ發生原因ハ多種ナレドモ、外陰囊腫ハ主トシテ前庭腺溜囊腫ニ屬シ、腔囊腫ノ起源ハ各種ノ胎生期遺殘組織ニ求メラル。余ハ最近胎生期遺殘組織ヨリ發生セリト思惟セラ、兩側巨大外陰囊腫ト腔囊腫トノ各1例ヲ實

驗セリ。兩者共ニ妊娠時ニ増大シテ症候ヲ發シタルモノナリ。而シテ外陰囊腫ハ泌尿性器竇ヨリ、腔囊腫ハ Wolff 管ヨリ發生セリト思惟セラレ、前者ニ關スル文獻ハ極メテ鮮シ。依テ茲ニ此ノ症例ヲ報告シ、併セテ其ノ起源ヲ考察セントス。

第2章 症 例

第1例(第1~4圖)。

患者 ○田○つ○, 30年3ヶ月, 農業, 既婚。
〔家族歴〕 父不詳病ニテ死亡, 母健在, 同胞3名總

テ健在, 遺傳疾患ヲ認メズ。夫健在, 性病ヲ否定ス。

〔既往歴〕 生來健康, 初經17年5月, 爾來正調, 持續日數3日, 月經困難ナシ。19歳2月結婚, 20歳ト22

歳トニ2回分娩。既往妊娠，分娩，産褥順調。

〔現病歴〕昭和18年1月21日來院。最終月經昭和17年9月15日ヨリ3日間，現在妊娠中。約5年前ヨリ外陰右側ニ雞卵大ノ腫瘍ヲ認メ，苦痛ナク放置，今回妊娠ニ際シ，約2ヶ月前ヨリ更ニ外陰左側ニ腫瘍發生，爾來兩側共ニ漸次増大，近時ハ歩行及ビ起居困難臥床ニ到ル。下腹部及ビ外陰ニ鈍痛アリ。便通1日1行，尿利正常，食思睡眠可良。

〔現症〕體格榮養中等度，顔貌尋常，平溫平脈，皮膚ニ貧血等ナシ。胸部臟器ニ異常ヲ認メズ。子宮底臍下2横指，胎兒體部並ニ胎動觸知，兒心音不鮮明。

性器所見(第1圖)，外陰兩側ニ巨大腫瘍。右側腫瘍約鷄卵大，略々球形，右側大陰唇ヨリ發生，其ノ基部ハ大陰唇前後兩端ニ互ル。左側腫瘍約手掌大，長橢圓形，其ノ基底ハ陰阜中央ヨリ肛門前縁ニ達ス。兩腫瘍ハ前庭及ビ腔入口ヲ全ク陰蔽ス。腫瘍皮膚緊張，發赤ナシ。腫瘍境界明瞭，表面平滑，弾力性柔軟，波動ヲ呈シ壓痛ナシ。右側腫瘍ハ皮膚面ニ於テ絞約セラレテ瓢形ヲナシ，腔壁ニ達シテ發育セル，全體積ハ外方隆起部ノ約3倍ニ達ス。左側腫瘍モ亦左側腔壁内ニ侵入發育スルコト外方隆起部ノ1/2ニ達セリ。左右陰唇間溝，並ニ陰唇ハ原形ヲ失ヒ，處女膜ハ癢痕化シ，腔壁ノ皺襞ハ消失セリ。双合診ニテ子宮前轉，小兒頭大柔軟，兩側附屬器正常。仍テ兩側性外陰囊腫(前庭腺瘤囊腫?)ノ診斷下ニ收容。臨床所見トシテ尿尿正常，血壓115-76，血色素68% (Sahli)，赤血球345万，白血球9800，血清「ワ」氏村田氏反應(-)。即チ輕度ノ白血球過多症。昭和18年1月26日腫瘍剔除術施行。

〔手術所見並ニ術後經過〕「ヌベルカイン」腰腿麻醉ヲ施シ，教授執刀ノ下ニ，腫瘍皮膚面ニ縱切開ヲ加ヘ，囊腫壁ヲ周圍組織ヨリ剝離シ，全囊腫ヲ核出セリ。右側囊腫ハ腔壁下ニ深ク侵入シ，其ノ上端ハ骨盤隔膜ニ達セリ。左側囊腫ハ約2.5cm腔壁下ニ埋没セリ。兩囊腫核出部位ハ大ナル空洞ト化セリ。仍テ外陰ニ於ケル剩餘皮膚ヲ切除シ，腸線埋没縫合ヲ以テ空洞ヲ充填シ，更ニ後腔壁舉筋縫合ヲ施行セリ。會陰整形術ニ當リテハ來ルベキ分娩ノ顧慮セルハ勿論ナリ。

〔剔除腫瘍ノ肉眼所見〕(第1圖)

兩囊腫ハ共ニ表面平滑，弾力性柔軟，右側囊腫ハ瓢形，重量170g，容積210cc，皮膚ヨリ膨隆セル部分ハ4.0×4.0×6.0cm，腔壁下ニ埋没セル部分ハ5.5×4.0×8.0cmノ球形，兩部ノ中間ハ縊レテ，周圍15.0cmニ狹窄，左囊腫ハ長橢圓球形，重量230g，容積220cc，其ノ1/3ハ腔壁下ニ埋没セリ。囊壁ハ菲薄，内部ハ單房

性，内面平滑ナレドモ所々ニ肥厚部アリ。内容液ハ粘々粘稠ニシテ褐色，鏡檢ニテ多數ノ赤血球白血球，少數ノ剝離上皮ヲ認メ，細菌陰性。

〔剔除腫瘍ノ組織學的所見〕(第2, 3, 4圖)

囊腫壁内面ハ2~3列ノ圓壘上皮ヲ有スル部分ト重層扁平上皮ヲ有スル部分トヨリ成ル。圓壘上皮ノ多クハ鰹毛ヲ有シ(第4圖)，重層扁平上皮層ハ波狀ヲ呈シ，其ノ表層ハ薄キ角化層ヨリナル。兩種上皮ハ互ニ移行シ，移行部ニ於ケル圓壘上皮ハ重層圓壘上皮トナリ，下層ヨリ上層ニ向ヒテ漸次扁平化シ，遂ニ重層扁平上皮トナル(第2圖)。囊腫壁ハ筋纖維ヲ包含シ，壁肥厚部ハ胞狀粘液腺ヲ包藏ス(第3圖)。

〔診斷〕妊娠第5月妊婦ニ於ケル兩側泌尿器囊腺腫ト診定。

〔術後經過〕術後即日自然排尿數回，爾後經過順調，無熱，手術創第一次癒合，術後第8日抜糸，妊娠經過正常，手術後第26日後遺症ナク全治退院。

第2例(第5~7圖)。

患者 ○前○つ○，22年，女工，既婚。

〔家族歴〕兩親健在，同胞7名健在，遺傳的疾患ナシ。夫健在，性病否定。

〔既往歴〕生來健康，3ヶ月前ヨリ輕咳，盜汗アリテ，肺浸潤ノ診斷ニテ受療中。初經14年10月，爾來順調，持續4~5日間，月經困難ナシ。本年3月結婚，現在結婚後8ヶ月目。

〔現病歴〕昭和17年11月9日來院，最終月經昭和17年6月18日ヨリ3日間，現在妊娠經過中，11月2日某醫ノ内診ニ由リ腔内腫瘍發見，現在食思便通尿利睡眠共ニ正常。

〔現症〕體格榮養中等度，顔貌尋常，平溫平脈，皮膚粘膜正常，胸部臟器正常，子宮底臍高，子宮底高16cm，兒頭下向可動性，兒心音右臍棘線中央。

性器所見(第5圖)。腔入口部ニ約雞卵大球形腫瘍，腫瘍表面ハ平滑，透明ナル表面ニ怒張セル血管分布。腫瘍壁菲薄，弾力性緊張，波動陽性。腫瘍ハ廣基性ニシテ，處女膜線ノ内方約1.0cmノ右側腔壁下ニ位シ，其ノ一部ハ前後腔壁下ニ侵入シ，腔腔内ニ還納可能。處女膜ハ癢痕狀ヲ呈ス。内診ニヨリ子宮ハ約大人頭大，捏粉狀柔軟，子宮腔部「リビド」色鮮明。

仍テ右側腔囊腫ノ診斷下ニ11月16日收容，臨床所見トシテ尿尿正常，血壓120-60，血色素82% (Sahli)，赤血球420万，白血球6500，11月17日囊腫剔除術施行。

〔手術所見〕。教授執刀ノ下ニ，直腸麻醉ニテ施行。囊腫基底ハ前右側腔壁ニ位セリ。仍テ之ヲ銳性ニ剝離

シテ囊腫ヲ完全ニ核出シ、剝離創ヲ縫合ス。

〔別除腫瘍ノ肉眼所見〕(第5圖)

囊腫ハ直徑3.5cm, 球形, 基底部ハ拇指頭大ニシテ前右側腔壁下ニ附着ス。囊腫壁ハ淡紅透明, 菲薄, 怒張血管ハ基部ヨリ起リテ囊腫壁ニ分布, 壁内面ハ平滑, 單房性, 内容ハ漿液性帶黃色透明液, 鏡檢ニテ少數ノ血球ト剝離上皮トヲ認メ, 細菌陰性。

〔別除囊腫ノ組織學的所見〕(第6, 7圖)

囊腫壁外面ハ重層扁平上皮ヨリ成リ, 表層ニ於ケル

角化層ト深層ニ於ケル上皮突起乃至乳頭層ヲ缺如ス。囊腫壁ハ極メテ菲薄ニシテ約1.5mm, 結締織血管等ヨリ成リ筋纖維ヲ認メシメズ。壁内面ハ單層骹子狀乃至低圓壘上皮ヲ以テ覆蓋セラル。上皮細胞ハ顫毛ヲ有セズ。

〔術後経過〕術後経過全ク平靜, 手術創ハ第一次癒合, 術後第7日抜糸, 妊娠ハ正常ニ経過シ, 術後第27日ニ全治退院セリ。

第3章 總括及ビ考按

第1例

本症ハ妊娠ニ際シ, 急速ニ増大セル兩側巨大單房性外陰囊腫ニシテ, 組織學的所見ニ依レバ, 壁内面ハ重層扁平上皮並ニ2~3列圓壘顫毛上皮ヲ以テ被覆セラレ, 兩種上皮ハ互ニ移行ス。壁ハ内腔ニ向ツテ所々ニ肥厚シ, 胞狀腺組織ヲ包含ス。内容ハ褐色粘性液ニシテ鏡檢上, 多數ノ赤, 白血球, 並ニ少量ノ上皮ヲ含有ス。

本所見ハ Werth⁽⁴⁾, Lagrange⁽⁵⁾, Ludwig⁽¹⁾, L. Meyer⁽⁶⁾, Bella⁽⁷⁾, Seidler⁽⁸⁾等ニ依リテ報告セラレ, E. Kehr⁽⁹⁾ノ記載セル「泌尿性器竇ヨリ發生スト思惟セラル、腺囊腫」ト同所見ヲ有ス。乃チ Werth ハ小陰脣ノ陰脣間溝ノ上部ニ於テ櫻實大ノ此種囊腫ヲ報ジ, Lagrange ハ右側大陰脣ニ於テ, L. Meyer ハ左側陰脣間溝ノ中央ニ發生セル胡實大ノ此種囊腫ヲ實驗シ, Seidler ハ右側大陰脣ニ於ケル兒頭大ノ囊腫ト小囊腫トニ遭遇シ, 小囊腫ニ於テ如上ノ細胞像ヲ證シ, 之ヲバ胎生早期ニ陥没セル外胚葉上皮ノ腺様増殖ニ由ルモノトナセリ。

本囊腫ノ由來ニ關スル考察ハ R. Meyer⁽⁹⁾ノ研究ニ負フ所多シ。氏ニ依レバ, 胎生早期ニ於テ泌尿性器竇ヨリ發生セル内胚葉性前庭上皮ト外胚葉性小陰脣上皮トノ移行部ハ個體ニ依リテ變動シ, 兩者ノ境界ハ往々不鮮明ナリ。而シテ胎生早期ニハ前庭内胚葉上皮ハ外陰外胚葉上皮ヨリモ旺盛ニ増殖シテ外表ニ進出シ, 胎生末期並ニ生後ニ於テハ此種上皮ノ境界ハ正常位ニ復歸ス。而シテ腺化傾向大ナル胎生早期ニ於ケル

前庭内胚葉上皮ハ胎生後期ニ於ケル後退ニ際シ, 腺組織ヲ外陰ニ遺殘セシムト。更ニ泌尿性器竇上皮ハ胎生早期ニ於テハ, 極メテ多形ニシテ♀尿道上皮ニ類似スト(L. Pick)。而シテ等シク内胚葉ヨリ發生セル蝦蟇腫, 腮囊腫, 食道顫毛上皮囊腫モ亦顫毛上皮ヲ有ス。

以上ノ諸點ヨリ考察セバ, 泌尿性器竇ヨリ發生セル腺囊腫ハ外陰ニ向ツテ進展シ, 壁内面ニハ顫毛圓壘上皮ト重層扁平上皮トヲ共有シ, 壁組織内ニ腺組織ヲ有スルハ奇トスルニ足ラズ。本囊腫ト鑑別ヲ要スベキ各種外陰囊腫ニ就キ其ノ鑑別點ヲ擧グレバ下記ノ如シ。

1) 前庭腺溜囊腫

日常最モ屢々遭遇ス。單房性囊腫壁内面ハ單層圓壘乃至扁平上皮ヲ以テ被覆セラレ, 顫毛上皮ヲ有スルコトナシ。

2) 乳腺囊腫

外陰ニ於ケル痕跡乳腺ヨリ發生シ, 囊腫壁ニ乳腺組織ヲ有シ, 剖面ヨリ乳汁様分泌物ヲ溢出ス。妊娠, 産褥時ニ増大シ極メテ稀有ナリ。

3) バルトリン大前庭腺ノ腺囊腫

囊腫壁ノ内面ハ所々ニ重層圓壘上皮ヲ有シ, 内壁ニ乳嘴狀突起ヲ有ス。

4) 顫毛上皮囊腫

卵巢乳嘴狀腺囊腫ト同一ノ組織所見ヲ有シ, 起源不明ナリ。

乃チ本症例タルヤ, 泌尿性器竇ノ内胚葉上皮ノ腺組織ヲ形成シテ外陰ニ遺殘セシメ, 生後該腺ハ増殖シテ腺囊腫ヲ形成シ, 妊娠ニ際シテ腫

脹セルモノト思惟セラル。

第2例

本囊腫ハ妊娠第5月妊婦ノ右前側腔壁ニ於ケル腔入口ヨリ約1.0cm内方ニ基底ヲ有セル約雞卵大ノ腔囊腫ナリ。囊腫壁ハ菲薄透明ニシテ、怒張セル血管ハ基底ヨリ囊腫壁ニ分布シ、内腔ニ黄色透明漿液性液ヲ滿セリ。組織學的ニ囊腫壁ハ結締織ヨリ成リ、壁内面ハ單層低圓嚮乃至骰子狀上皮ヲ以テ被覆セラレ、壁外面ハ腔粘膜ノ重層扁平上皮ヨリ成ル。

今婦人ニ於ケル Wolff 管並ニ之ヨリ發生セル腔囊腫ニ關スル文獻ヲ通覽スルニ、Wolff 管ハ腔上部ニ於テハ側腔壁ヲ走リ、腔ノ下部 $\frac{1}{3}$ ニ於テハ稍々背側ニ位スレドモ、腔ノ最下端ニ於テハ弓狀ヲ成シテ腹側ニ轉ズ。次ニ Wolff 管上皮ハ單層圓嚮上皮ヲ原形トスレドモ、R. Meyer⁽¹⁰⁾ニ據レバ腔壁、處女膜内ノ Wolff 管上皮細胞ハ甚シク變形シ、單層、重層多列トナリ、圓嚮狀、骰子狀、扁平狀ヲ呈シ、時トシテ重層度ヲ増シテ移行上皮トナリ、尿管上皮ト酷似スルコトアリ。Wolff 管ニ由來セル腔囊腫ノ特徴タル囊腫ノ位置ト形態、上皮ノ形態、囊腫ノ構造等ニ關シテハ未ダ定説ヲ見ズ。乃チ其ノ位置ニ關シテハ、腔穹窿及ビ腔上部 $\frac{1}{3}$ ニ發生セルモノ

ハ側壁ニ位シ、下部 $\frac{2}{3}$ ニ發生セルモノハ側壁又ハ前側壁ニ位シ、或ハ腔壁ノ深層ニ或ハ表層ニ占居スト(Vassmer⁽¹¹⁾、Gebhard⁽¹²⁾ハ Wolff 管腔囊腫ノ特有形態トシテ、腔ノ縱軸ニ沿ヘル圓嚮狀ヲ唱フレドモ必ズシモ然ラズ。Wolff 管囊腫ノ珠數狀排列ハ G. Veit、Gebhard⁽¹³⁾ニ依リテ重視セラレタレドモ、Müller 管囊腫、淋巴囊腫モ亦同様ノ排列ヲナスコトアリ。Wolff 管囊腫上皮ノ形態ハ既述ノ Wolff 管上皮ノ如ク極メテ多様ナリ。今 Wolff 管以外ニ由來ヲ有セル腔囊腫ヲ舉ゲ、Wolff 管囊腫トノ鑑別點ヲ舉グレバ次ノ如シ。

1) Müller 管囊腫

(イ) Müller 管ノ癒合異常ニ際シ、片側ノ痕跡 Müller 管ヨリ發スルモノハ側腔壁ニ在リ。腔ハ狹小、且ツ側方ニ偏在シ、内性器ニ異常ヲ有ス。囊腫内面ハ重層扁平上皮ヲ有セルモノ多シ。

(ロ) 外傷ニ由ル腔粘膜ノ迷入ニ因リテ發生スルモノハ分娩、整形手術等ノ既往歴ヲ有ス。

2) 腔腺ニ由來スル腔囊腫

胎生期ノ腔腺又ハ腔壁内ニ迷入セル頸管腺ヨリ發生シ、囊腫壁ニ腺組織ヲ包含ス。

第4章 結 論

本報告ハ胎生期遺殘組織ヨリ發生セリト思惟セラル、外陰並ニ腔囊腫ノ各1例ニシテ、前者ハ泌尿性器竇ニ、後者ハ Wolff 管ニ由來セルモノト思考セラル。而シテ兩者共ニ妊婦ニ現レ、妊娠ニ際シテ増大セルモノナリ。前者ニ關スル

本邦文獻ハ之ヲ索メ難ク、後者ノ文獻モ亦稀ナリトス。

稿ヲ終ルニ臨ミ、御懇篤ナル御指導ト御校閱ヲ賜リタル恩師笠森教授ニ、衷心ヨリ感謝ノ意ヲ表ス。

文 獻

1) E. Kehrner, Die Vulva und ihre Erkrankungen, Veit-Stoeckel, Handbuch der Gynaekologie, V. Band, I. Teil, 1929. 2) L. Nürnberger, Die Erkrankungen der Scheide, Veit-Stoeckel, Handbuch der Gynaekologie, V.

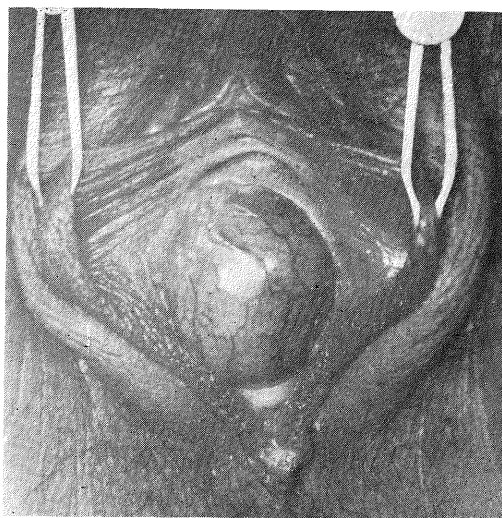
Band, II. Hälfte, 1930. 3) A. Labhardt, Die Erkrankungen der äussere Genitalien und der Vagina, Biologie und Pathologie des Weibes III. Band, 1924. 4) Werth, Zur Anatomie der Cysten der Vulve, Zbl. f. Gynäk, Nr. 22,

遠藤論文附圖

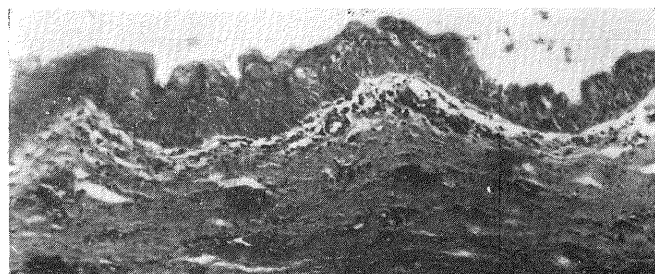
(1)



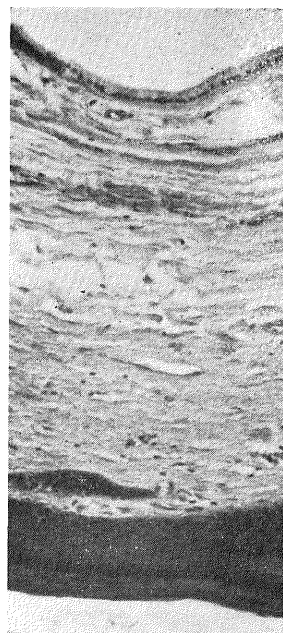
(5)



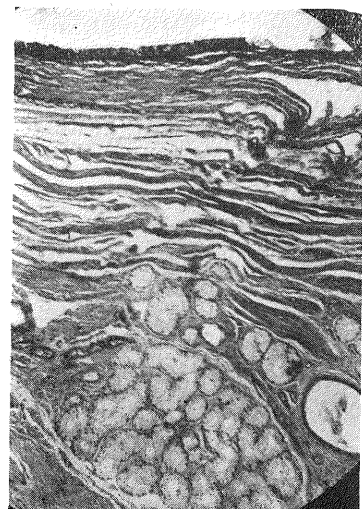
(2)



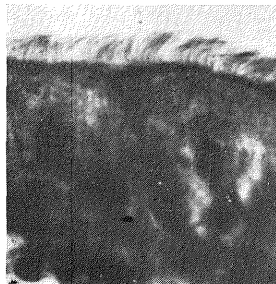
(6)



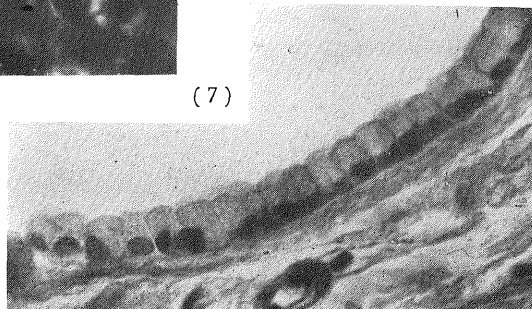
(3)



(4)



(7)



1878. 5) **Lagrange**, Kyste congenital de la-grande le'vre Zbl. f. Gynäk. 1886. 6) **L. Meyer**, Ein Fall von Adenokystoma papilliferum vulvae und ein Fall von Flimmerepithelcyste des Sulcus interlabialis vulvae, Inaug-Diss. Leipzig. 1903. 7) **Bella, De**, Cisti della vulvae cisti vaginale, Ber. Gynäk. 8, 706 (1925). 8) **Seidler**, Cystadenoma der grossen Schamlippen embryonalen Ursprungs, Zbl. f. Gynäk, Nr. 28, 1925. 9) **R. Meyer**, Über Drüsen der Vagina und Vulva bei Feten und Neugeborenen. Z. Geburtsh. 46, 17 (1901). 10) **R. Meyer**, Embryonale Gewebseinschlüsse in der

weiblichen Genitalien. Erg. Path, 9 (1905). 11) **Vassmer**, Über einen Fall von Persistenz der Gartnerschen Gänge in Uterus und Scheide mit cystische Erweiterung des in der linken Vaginalwand verlaufenden Abschnittes des Gartnerschen Ganges. Arch. f. Gynäk. Bd. 60. 12) **Kleinwächter**, Ein Beitrag zu den Vaginalcysten, Z. f. Geburtsh. Bd. 16 (1886). 13) **張**, 腔囊腫ニ就テ. 日婦會誌, 29卷 (昭和9年). 14) **石川**, 胎生遺殘臟器ヨリ發生セリト思惟セララル大陰脣腺腫ノ一例. 成醫會誌, 58卷 (昭和14年).

附 圖 說 明

第1圖 外陰囊腫.

第2圖 (×150) 外陰囊腫壁内面ノ重層頰毛圓壻上皮(右方)ト重層扁平上皮(左方)トノ移行部.

第3圖 (×50) 外陰囊腫壁内面ノ多列圓壻上皮ト壁内ノ胞狀腺組織.

第4圖 (×1000) 第3圖上皮層ノ擴大圖. 多

列頰毛上皮.

第5圖 腔囊腫.

第6圖 (×150) 腔囊腫壁内面(上面)ノ圓壻上皮ト外面ノ腔粘膜上皮(下面).

第7圖 (×700) 腔囊腫壁内面ノ圓壻上皮.